

增田文庫

## 増田文庫

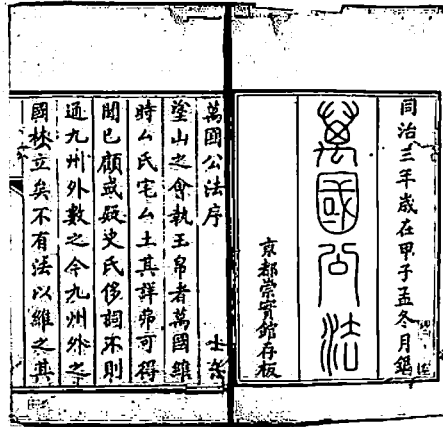
関西大学増田渉文庫は、魯迅から直接教えを受け、魯迅研究の第一人者としてその令名の高い故増田渉先生が生前蒐集された蔵書の全てを、先生の歿後、関西大学図書館が、ご遺族の深いご理解の下に委譲され、特別に保管したものである。

増田文庫には、魯迅に関する貴重な資料が収められていることは言うまでもないことであるが、実は、もう一つ重要な資料が収められている。それは、いわゆる近代における「西学東漸」に関する麗大な文献である。この分野に関する研究は、近年ようやく盛んに行われるようになってきているが、まさに増田先生はこの分野での先駆者と称し得るものであり、この種のコレクションとしては恐らく世界に誇るべき量と価値を有していると言っても過言ではないと思われる。

今回の特別展示では、特に日中欧文化交流史の観点から、いわゆる「漢訳洋学書」を中心に取りあげてみることにした。なお、本解題作成にあたっては、特に増田先生の御著書「西学東漸と中国事情」(岩波書店、一九七九)および「雑書雑談」(汲古書院、一九八三)を参考にした。

(内田慶市 記)

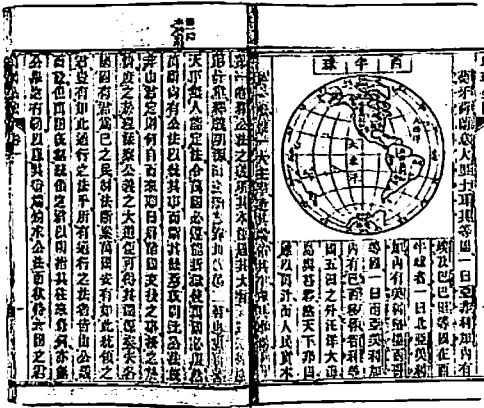
美國惠頓撰 清丁燮良譯  
 同治三年（一八六四）京都崇實館刊本



(LM2 \* (ほ \* 20 \* 7))

美國惠頓撰 清丁燮良譯  
 慶應元年（一八六五）江戸開成所撰  
 同治三年京都崇實館版刊本

「開成所」で訓点と、人名地名に読音カナを付して翻刻したもので、明治四年の東京萬屋兵四郎撰慶應元年開成所刊本重印も所蔵されてゐる。



(LM2 \* (ほ \* 20 \* 9))

45 萬國公法釋義 二卷

美國惠頓撰 日本堤毅上志譯  
 慶應四年(一八六八) 京都錢屋惣四郎等刊

版名交りで和訳したもの。

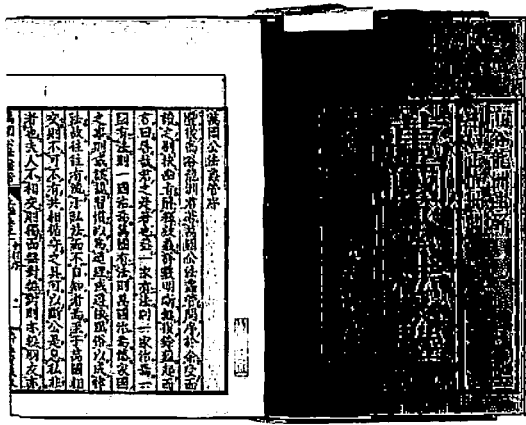


(LM 2 \* (3 \* 20 \* 11))

46 萬國公法彙管 上編二卷中編三卷下編三卷

日本高谷衷撰  
 明治九年(一八七六) 東京北畠茂兵衛刊本

訓点を付し、内容にわたる漢文の注釈を入れたもの。



(LM 2 \* (3 \* 20 \* 10))

「萬國公法」はアメリカの惠頓 (Wheaton, Henry, 1785-1848) の「Elements of international law」(1836) を中国語に翻訳したものであり、欧米諸国との折衝の機会が増大という当時の社会情勢の変化に伴い、国際法の知識の必要性という急務から中国、日本で多く翻刻された。中国語はアメリカ北長老会の宣教師であり、後に「北京同文館」さらには「京師大学堂」(北京大学の前身) の教習でもあった丁韪良 (Martin, William Alexander Parsons, 1827-1916) に于ける。Martin はこれを使って国際法の講義を行った。この書の中では「権利」「義務」「民主」「自主」「自治」「国会」「不動産」といった新しい語彙も使用されている。日本では、坂本龍馬はこれを土佐で翻刻しようと出版資金の面で尽力しようとしたというが、明治三年に大学規則が制定された時、科目として「万国公法」が開設され、この「萬國公法」が教科書として採用された。

47 公法會通 十卷

德國步倫撰 美國丁韪良譯 日本岸田  
吟香訓點  
明治十四年 東京岸田氏樂善堂排印本

樂善堂  
聚珍版

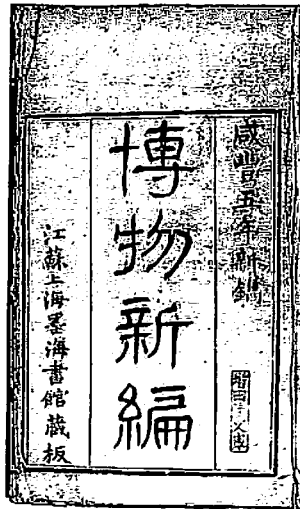


(LM 2 \* 13 \* 20 \* 12)

これも、国際法に関する書であり、スイス生まれのドイツ人法学者  
歩倫 (Bluntschli) の「Das moderne Völkerrecht als Rechtsbuch」を  
Martin が中国語に訳したものである。

48 博物新編 三卷

英國合信撰咸豐五年（一八五五）  
江蘇上海墨海書館藏板

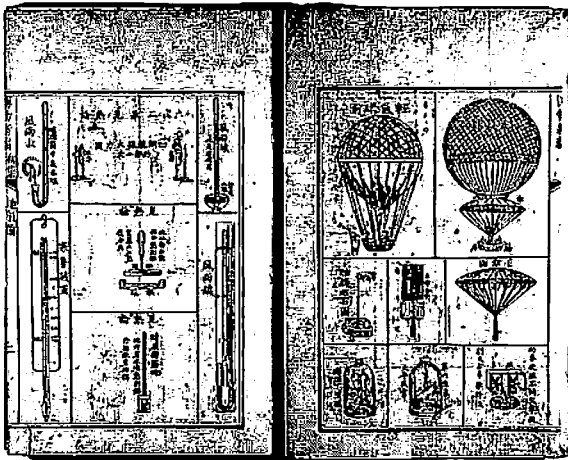


(LM 2 \*ほ\*39\*10)

49 博物新編 三卷

英國合信撰 元治元年（一八六四）  
江戸萬屋兵四郎刊本

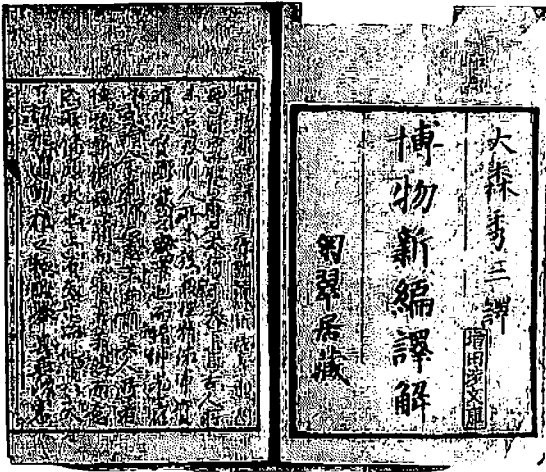
開成所による訓点本であり、學術用語にはオランダ語の語音も付けられている。



(LM 2 \*ほ\*39\*9)

大森解行 明治二年（二八六九）刊  
菊家居藏版 和二冊

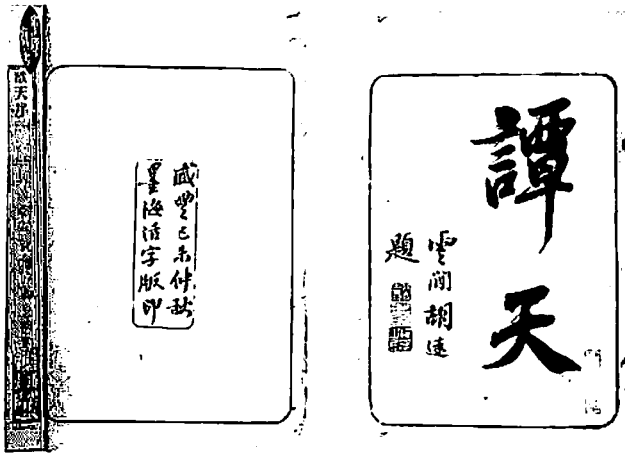
仮名交りに翻訳したもの。また、東京版金屋清吉刊本の五冊本も蔵す。



(LM 2 \*に\*20\*15)

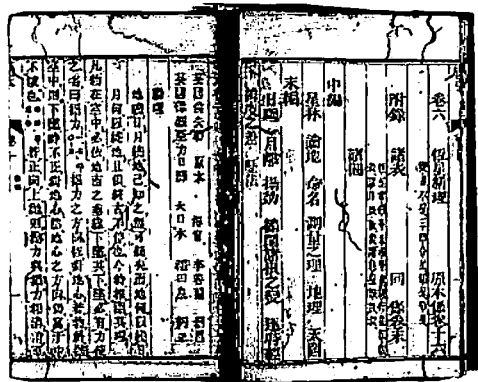
イギリスロンドン会の宣教師、医師であつた合信 (Hobson, Benjamin, 1816-1873) の物理、電気、宇宙天文、生物に関する書。具体的な内容は、第一巻が「地氣論」「熱論」「水質論」「光論」「電気論」、第二巻は「天文略論」「晝夜論」「地球亦行星論」「月輪圓缺論」「月蝕定例論」「水星論」「地球論」「潮汛隨月論」「金星論」「火星論」「木星論」「土星論」「彗星論」、第三巻が「鳥獸略論」となっている。各巻とも図版が豊富に挿入されているのが特色である。原本の出版を行った「墨海書館」はロンドン会の印刷所 (London Missionary Society Press) であり、メドハースト (Medhurst, Walter Henry, 1796-1857) によって上海で創設され、ミューアヘッド (Murhead, William, 1822-1900)、王船 (1828-1897) などとその重要メンバーとして聖書、啓蒙書、科学書など多くの書籍を出版した。本書で合信は「淡氣 (nitrogen)」「炭氣 (carbon)」「輕氣 (hydrogen)」「養氣 (oxygen)」という4つの元素の中国名を創り出している。なお、Hobson には他に「全體新論」(咸豐元年)、「西醫略論」(咸豐七年)、「内科新説」(咸豐八年)、「婦嬰新説」(咸豐八年) といった医学書がある。このうち、増田文庫には、「全體新論」の和刻本 (安政四年、越智氏調點本)、「西醫略論三卷」の原本と和刻本 (安政五年、桃樹園三宅氏藏版、老臣館萬屋兵四郎發行)、「内科新説」の和刻本 (安政六年、桃樹園藏梓、老臣館發行)、「婦嬰新説」の和刻本 (安政六年、平安天堂堂藏版) を蔵す。

天 十八卷附表一表 英國侯失勒撰 英國偉烈亞力口譯 清 李善蘭圖述 咸豐九年（一八五九）墨海書館活字 印本



(LM 2 \* (3 \* 25 \* 17))

英國侯失勒撰 英國偉烈亞力口譯 清 李善蘭圖述 日本福田泉調正 文久元年（一八六一）序 浪華順天堂刊本



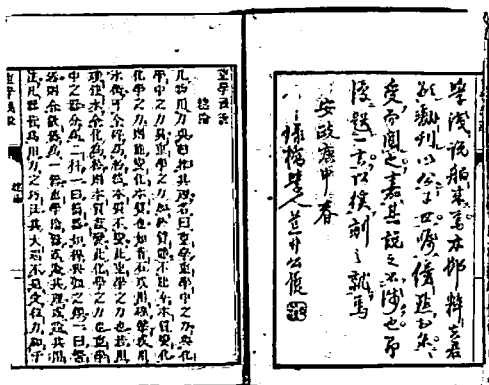
(LM 2 \* (3 \* 25 \* 18))

偉烈亞力はイギリス人宣教師 Alexander Wylie (1815-1887) であるが、イギリス天文学会長の侯失勒 (Herschel) の天文書を江南製造局翻訳館の中国人翻訳者の中心メンバーであった科学者、李善蘭 (1811-1882) と共に中国語に訳したものである。梁啟超は「西學書目表」で、これが「最も精善」と評している。



53 重學淺説 卷

兩名撰 日本木村淳也編刊 荒井公  
 履傍點  
 萬延元年（一八六〇）大阪秋田屋善  
 助等刊本 黄花園藏版



(LM 2 \* (3 \* 39 \* 19))

「重學」とは「力学」のことであるが、これも偉烈亞力が主軸と中國語に訳したものである。原本は感しないが、この相刻本は原書の出版から二年後のものであり、当時の人々のこの種の知識への希求が窺い知れる。

54 格物入門 七卷

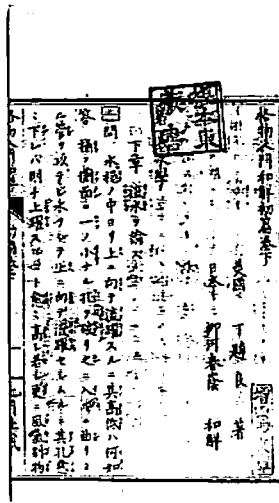
美國丁魁良撰 日本木山齋吉調點  
 明治二年（一八六九）東京忠金屋清  
 吉刊本 看聞學校明親館藏版



(LM 2 \* (3 \* 39 \* 7))

55 格物入門和解

美國丁健良撰 柳河春監譯  
 明治三年（一八七〇）北門社藏版  
 和四冊



(LM 2 \*に\*20\*17)

理科方面全体（水學、氣學、火學、電學、力學、化學、算學）に関  
 わる啓蒙書であるが、これも「萬國公法」と同じく、Martinの手に  
 なるものである。原本の條目（1795-1873）による序が和刻本でも転  
 載されている。この書も、原本の出版年の翌年に日本で翻刻されてお  
 り、当時、日本でも有用の書とされたことがわかる。本書には「電池」  
 といった「電」によって構成された多くの複合語も見られる。また、  
 「力學」「化學」といった用語も使用されている。

なお、Martinの書には以下のようなものもある。

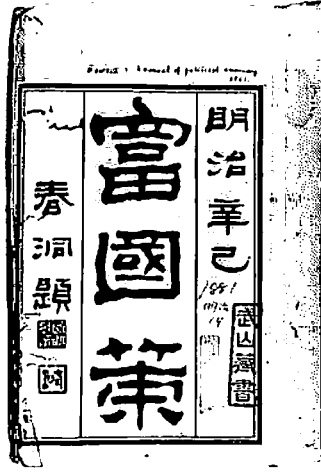
56 西學考略 二卷

美國丁健良撰 光緒九年（一八八三）  
 同文館排印本（井上毅監蔵）



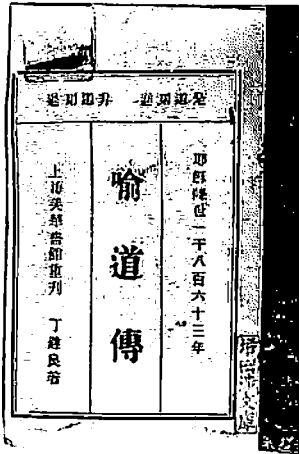
(LM 2 \*は\*39\*1)

英國法思德撰 美國丁禮良譯 日本  
岸田吟香調點 明治十四年(一八八二)  
岸田氏乘善堂排印本



(LM 2 \* (3 \* 18 \* 6)

美國丁禮良  
同治二年(一八六三)上海美華書館刊



(LM 2 \* (3 \* 38 \* 16)

美國丁禮良 日本渡邊溫調點  
明治十年(一八七七)東京稻田佐兵衛刊



(LM 2 \* (3 \* 38 \* 17)

60 格物探原 三卷

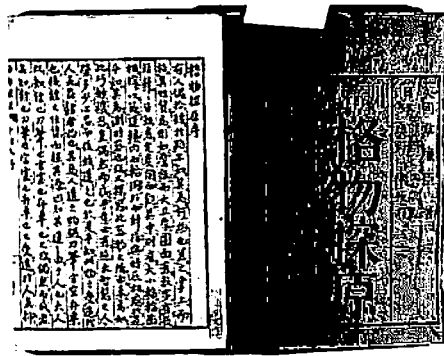
英國韋廉臣撰  
光緒二年(一八七六) 排印本



(LM 2 \* (3 \* 39 \* 4))

61 格物探原 五卷

英國韋廉臣撰 日本熊野與調點  
明治十一年(一八七八) 東京版風昭  
刊本



(LM 2 \* (3 \* 39 \* 6))

韋廉臣 (Williamson, Alexander, 1829-1890) はイギリスロンドン会の宣教師で、「廣學會」の編集者の一人であるが、この書も理科関係の解説書。ただ、第二巻では「上帝惟一」「上帝至大」「上帝全能」「上帝全仁」という内容で、いわゆるキリスト教の宣伝書であり、物理や博物をキリストの教義とからめて説明している。つまり、あくまでもキリスト伝道の書の一つとして書かれているということである。なお、韋廉臣の書としては以下のものも収められている。

62 植 物 學 八 卷

英國韋廉臣撰 清李善蘭筆述  
江戶刊本



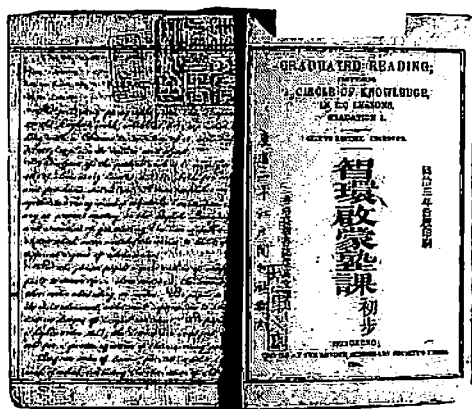
(LM 2 \* 13 \* 39 \* 20)

63 智環啓蒙塾課初歩

不分卷

英國理雅各撰 英華書院譯 柳河春  
三點  
慶應三年（一八六七）江戶大相屋喜  
兵衛刊本

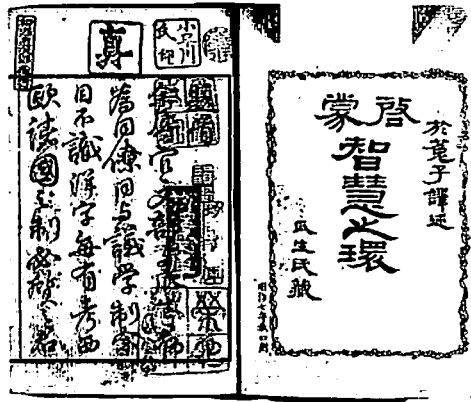
中国語に訓点を施したものである。



(LM 2 \* 13 \* 38 \* 28)

## 啓蒙知恵乃環

英國理雅各著 瓜生貞譯  
 明治七年（一八七四）東京和泉屋吉  
 兵衛門 和三四



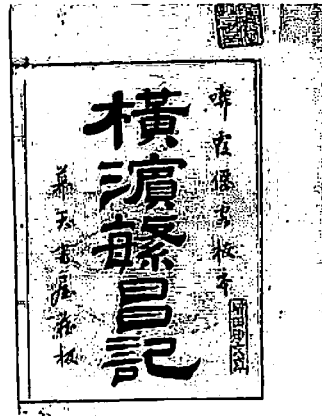
(LM 2 \* に \* 20 \* 13)

本書は第四版であるが、挿絵が入り、平かな漢字交じりで、「智環啓蒙」を和訳したもの。「於菟子評述」とあるが、「於菟子」とは「瓜生貞」のこと。

理雅各 (James Legge, 1814-1897) はロンドン会の宣教師で、マラッカ、香港の「英華書院 (Anglo-Chinese College)」の院長を務め、後にオックスフォード大学の中国学教授に就いた当時有数の中国学者である。「遐邇貫珍」の編集、「四書」の英訳などを行った。本書は『The Circle of Knowledge, Graduation 1.』(Baker, Charles, 1848) を中国語に訳したもので、原書は咸豊六年（一八五六）に香港英華書院から出版された。西洋の科学知識等の初歩を二〇〇課に分けて説明したものであるが、日本でも多く翻刻されている。調点者の柳河春三は幕末の洋学者で、幕府の「開成所」の頭取をつとめ、オランダ、フランス、イギリス、ドイツの各国語に通じたといわれる。

65 横濱繁昌記

錦溪老人刊 尊天書屋藏板 和一册



(LM 2 \* に \* 12 \* 16)

出版年是不詳であるが、「錦溪老人」とは「柳河春三」とされる。本書は漢文ではあるが、「白話」の交じった面白い文体（文言白話混交体）で書かれている。また、本書には「舶来書籍」の項があり、当時、中国から舶来された近代科学や地理書、新聞雑誌を多く挙げており、日本の知識人の「新知識」への希求の強さがうかがわれる。

増田文庫には「地理書」も多く収められているが、ここでは次のものだけを挙げておく。

66 地球説略

美國地理哲撰

咸豐六年（一八五六）

東波華花聖經書房排印 松平氏藏書

（安政五年十一月讀了とあり）

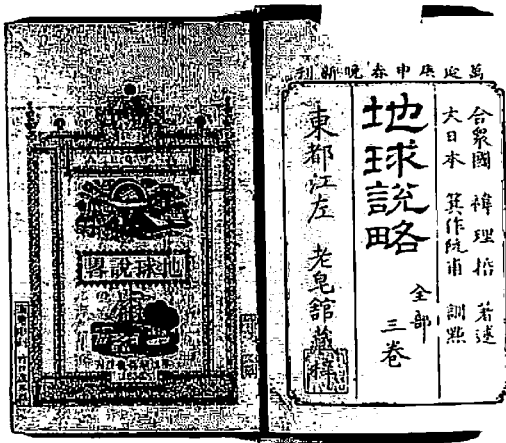


(LM 2 \* ほ \* 15 \* 15)

67 地球説略

美國梅理哲撰 日本箕作阮市訓點  
萬延元年（一八六〇）  
江戸萬屋氏四郎刊本 老臣館藏版

梅理哲 (R. C. Weir 1819-1895) はアメリカ北長老会の宣教師であるが、本書はいわゆる「分合活字」が使用されており、印刷史上でも極めて重要な資料となっている。また本書には「松平氏蔵書」の印が押され、「安政五年十二月読了」と末尾に墨書されている。



(LM 2 \* ぼ \* 15 \* 16)

最後に増田文庫に収められている署名入り、自筆原稿についても若干のものを挙げておく。

68 初學階梯 四卷

美國夏察理撰 清陳階益校訂  
光緒二十九年（一九〇三）  
上海美華書館排印本



(LM 2 \* ぼ \* 38 \* 27)

夏察理 (Hartwell, Charles, 1825-1905) はアメリカ公理会の宣教師であるが、本書は自然や社会に関する基礎知識を述べた啓蒙書である。本書の表紙には「PRIVATE LIBRARY OF JOHN FRIER, UNIVERSITY OF CALIFORNIA」[JOHN FRIER CHINESE LIBRARY]と印刷されているところから、フライヤーがカルフォルニア大学に寄贈した文庫の一冊であることがわかる。John Fryer (傅蘭雅, 1839-1928) はイギリ

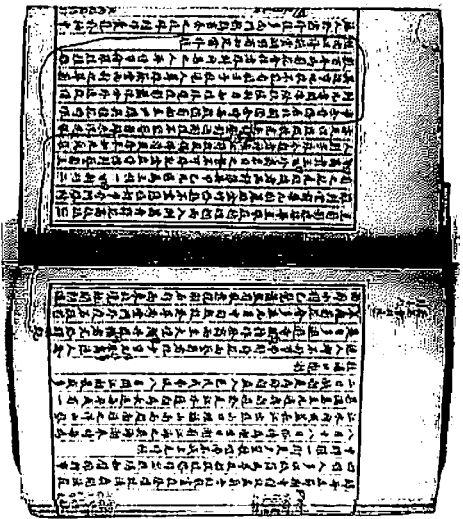


人で、香港の聖保羅書院院長、北京同文館教育を歴任し、その後、上海江南製造局翻譯館で多くの科学書の翻譯に当たり、また『惜致錄』(一八七五割内)の編集にもたずきわった。増田文庫には同じよ

うな来歴と思われる書が他に二冊残されている。

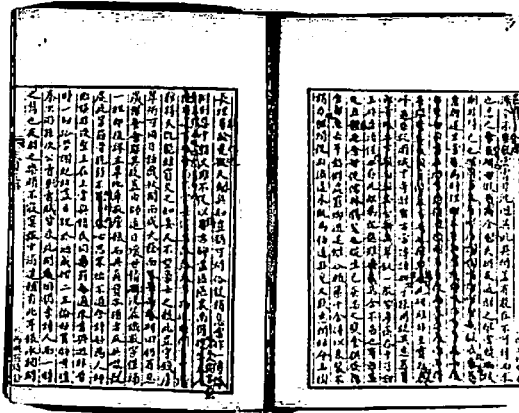
主婦による上海の風俗、人物、雑事掌故を記したものであるが、別

に刊本「元緒元年」一八七五）も残されているが、本書は鈔本である。「閩國述撰」(上方)、「天南燕窩精鈔」(吳龍王船存本)(下方、二行)と板心に刷り込まれた自家用の差遣版大罫紙に手写したものである。誰かに筆辨させたものようだが、所々に主婦自筆の剛正の字句や細字長文の増入がある。また、段落の更迭や巻数の分別を指示する語を書いた「短冊」が挿入されており、刊本の底本となった保存原稿本である。



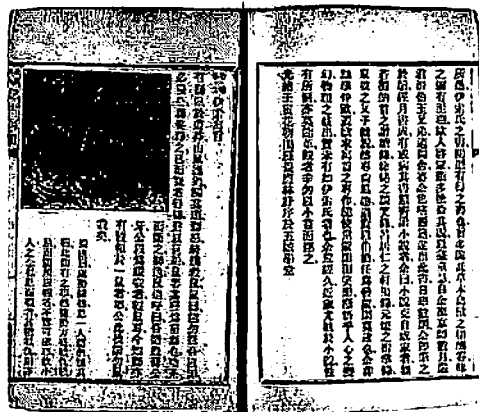
(LM2 #13 #13\*8)

これも同じく柱刻に「爰園述撰」(上方)、「天南懸窟精鈔」(呉群王  
稿存本) (下方、二行)とある罫紙に手写されたもの。ただ本書は、  
活字本に比べて全体の分量はかなり少なく、巻数の分別も不明瞭で、  
最初期の稿本と見られている。本文は別人の手にかかるが、剛改や増  
人は主稿自身の筆で入っている。



(LM 2 ほ \*40 \*14)

光緒二十九年(一九〇三) 五月首版



(LM 2 ほ \*48 \*30)

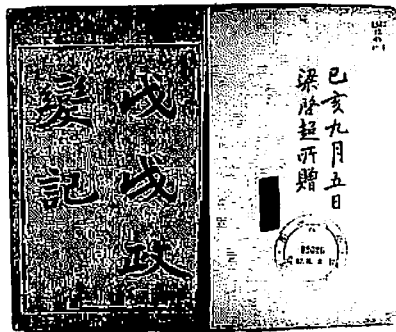
本書は、中国人の手になる最初(もちろん、それ以前にも「海國妙  
驗」等があるが、それらはロバート・トームの「意拾驗言」を元にし  
たものである)の「イソップ寓話」の中国語訳であり、林紘と嚴復の  
長男である嚴璣と嚴復の姪の子、嚴培南との共訳である。本書の特色  
は原話の単なる翻訳でなく、「畏廬曰」として、訳者林紘の「評」が  
加えられている点である。表紙には「畏廬先生手贈」と墨書され、さ  
らに別人の筆で「野中島先生贈之 嶽郭著」とあり、その下に「高宮

氏」の朱印がある。つまり、本書の訳述者である林紆から中島氏に手贈され、それを更に高宮氏に贈ったものであることがわかる。中島氏とは、明治時代に北京公使館書記官であった「中島雄」氏である。また、高宮氏とは「順天時報」の記者であった高宮議氏である。

72 戊戌政變記

梁啓超 和三冊

本書は特に珍しい本ではないが、表紙裏に「己亥九月五日 梁啓超所贈」と墨書されている。つまり、本書の元の所持者が梁啓超から直接贈られたものであるが、明治二十年代に活躍した政論家ジャーナリスト川崎紫山の蔵書であったという。



(LM 2 ほ \*48 \* 1)